

**令和7年度  
淡路市自分ごと化会議 提案書  
「夏まつりのあり方」**

**2025年12月22日  
淡路市自分ごと化会議**

## 目次

1. はじめに .....	3
2. 自分ごと化会議の概要 .....	5
3. 提案内容 .....	6
4. 付録：アンケート結果 .....	14

# 1. はじめに

淡路市長 戸田 敦大 様

私たち「淡路市自分ごと化会議」委員一同は、無作為抽出という縁によってこの場に集まり、淡路市の抱える課題、特に今回は「夏まつりのあり方」というテーマを通じて、地域のこれからについて真剣に議論を重ねてきました。

当初は「市の夏まつり（花火大会）」の開催の是非や渋滞問題という具体的な課題から議論が始まりましたが、回を重ねるごとに、「この祭りは誰のためのものなのか」「観光振興と市民生活の豊かさをどう両立させるか」そして「私たちが住む地域のコミュニティや伝統を、次世代にどう残していくか」という、市の未来に関わる根源的な問いへと深まってきました。

議論の中では、「市の象徴として盛大に花火を上げたい」という想いがある一方で、「渋滞で生活が脅かされるのは困る」というジレンマが多くの委員から出されました。また、市内のどこの地区でも、少子高齢化により担い手不足が深刻化し、「10年後に地域の祭りが本当に継続できるのか」という危機的な状況が浮き彫りになりました。

市が主催する夏祭りと、だんじり祭りなどの神事、盆踊りなど地区の各種団体が主催する祭りは、役割や性質が異なるものであり、どれを重視するかなど単純な結論は出せないという認識に至りました。

本提案書では、安易に一つの結論に絞り込むのではなく、それぞれの祭りが直面する課題に対し、複数の可能性（選択肢）を提示したうえで、市長に託すこととしました。

「市の夏まつり」については、市の象徴として継続を望む声が多数だったものの、中途半端に開催を続けるのではなく、目的を明確にすべきとの意見で一致しました。具体的には、「観光・収益化を目指した1か所開催」、「『市民・地域のため』を重視した分散開催」、そして「メインとサテライトの組合せモデル」という3つの選択肢を提案します。どの道を選ぶにしても、「ワクワク感が持てること」「市民が置き去りにされないこと」「持続可能な財政負担であること」が不可欠であるというのが、私たちの共通した意見です。

「地域の祭り」については、「担い手不足」と「資金不足」という課題に対して、単に補助金を出すだけでは解決できないと考えます。「自分たちの地域だけで完結する」という発想を乗り越え、他地区や外部人材を受け入れるマッチングの仕組みづくりや、限界を迎えるつある町内会組織そのもののあり方の検討など、将来を見据えた抜本的見直しの必要性が共有されました。

私たちは、これらの祭りを「行政がやるもの」「地域がやるもの」と切り離すのではなく、それぞれの役割を時代に合わせて進化させることを求める。『今できる小さな一步』でごまかさず、骨太のまちづくりを考える。立場も世代も異なる私たちが悩み、知恵を出し合ったこのプロセスこそが、この会議のスタートに市長が仰った「共創」の第一歩だと思います。

行政に任せるだけではなく、市民と行政が一緒になって考え、行動することで、淡路市をより豊かで持続可能なまちにしていきたい。本提案書は、そのような願いを込めた、私たちからの「未来への提案」です。

淡路市自分ごと化会議委員 一同

## 2. 淡路市自分ごと化会議の概要

テーマ： 夏まつりのあり方

主 催： 淡路市

協 力： 一般社団法人 構想日本

### 会議参加者

自分ごと化会議委員	・無作為抽出市民 24 人（応募率 2.4%）*1 *1 住民基本台帳より無作為に選ばれた 18 歳から 79 歳まで 1,000 人の中から応募のあった淡路市民
コーディネーター	伊藤 伸 氏（構想日本 総括ディレクター）

### 淡路市自分ごと化会議委員一覧

上坂 晃正	佐藤 富夫	中村 千明	野添 義博
菱谷 維起	飛田 恵智子	平田 國雄	他 17 人

※承諾いただいた方のみ名簿に記載しています。

### 事務局

淡路市	地域の現状や、テーマに関しての行政の取組などを説明する役割 産業振興部商工観光課、企画情報部まちづくり政策課
-----	---

### 各回会議概要：

日 時	内 容
第 1 回 2025 年 10 月 18 日（土）	自分ごと化会議の主旨説明（構想日本） 淡路市夏まつりの現状報告 地域イベントの現状報告、質疑応答、意見交換
第 2 回 2025 年 11 月 9 日（日）	第 1 回の振り返り 夏まつり（花火大会）の方向性議論（観光振興、市民還元）、 地域の祭り（だんじり等）の課題と解決策の議論
第 3 回 2025 年 12 月 7 日（日）	第 2 回までの振り返り 提案書（案）の内容を基にした議論、最終的なとりまとめ

### 3. 提案内容

本提案は、各委員の議論の内容や会議ごとに記入した「改善提案シート」を踏まえて取りまとめたものです。

提案

#### 【市の夏まつり・方向性 A】

- 1 「観光・収益化」を目指した1か所開催～高付加価値化に転換し市の財政負担を抑制して持続可能なイベントへ～

提案

#### 【市の夏まつり・方向性 B】

- 2 「市民・地域のため」を重視した分散開催～旧町単位での開催による、市民が本当に参加しやすく楽しめる祭りへ～

提案

#### 【市の夏まつり・方向性 C】

- 3 「メイン（津名）」と「サテライト（岩屋・北淡・一宮・東浦）」の組合せモデル～「市の象徴」と「市民・地域のため」の両立～

提案

#### 【地域の祭り】

- 4 「担い手不足」からの脱却のため、コミュニティのオープン化によって地域コミュニティそのものを維持する

## 【市の夏まつり・方向性 A】

## 1 「観光・収益化」を目指した 1 か所開催～高付加価値化に転換し市の財政負担を抑制して持続可能なイベントへ～

今回の会議に参加している委員の中でも交通渋滞を理由に夏まつりに参加していない人が多かったものの、市の象徴として大きな花火大会を行ってほしいという意見も複数出た。実施にあたっては、単なる無料イベントではなく、淡路市のブランド価値を高める「観光資源」として再定義する。花火の打上発数を増やすなど目玉を作りつつ、駐車場の有料化や有料席の設定などによって収益化を目指し、淡路市の市税負担を減らすことでの持続可能な花火大会へと進化させる。

## 「提案 1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	<ul style="list-style-type: none"><li>① 花火は無料という考え方を変える。</li><li>② 市民として、市に対してしてほしいことを具体的に考える。</li><li>③ SNS や口コミで祭りの魅力を広報する。</li><li>④ 前もってその日に備えて準備する。</li><li>⑤ 自家用車を使わずに参加する方法（バス、自転車、徒歩等）を考える。 あるいはなるべく外に出ない。</li></ul>
地域	
行政	<ul style="list-style-type: none"><li>① 目的を明確にした上で、市民ファーストかつ持続可能性を考える。</li><li>② 花火を 1 万発規模に増やし、イベントを花火に特化させて徹底的に収益化を目指す。</li><li>③ 人口の多い津名地域（志筑など）や南部での 1 か所開催が可能か検討する。</li><li>④ 駐車場や観覧席を高額有料化し、収益を確保する（例：洲本方式、鈴鹿 F1 方式）。</li><li>⑤ ふるさと納税の返礼品として優先枠（駐車場・観覧席）を設ける。</li><li>⑥ 運営の民間委託を進める。</li><li>⑦ 市の補助金が現状より減るよう収益化のための具体案を考える。</li><li>⑧ 市が負担する金額を減らすため、クラウドファンディングを検討する。</li><li>⑨ 淡路 IC～東浦 IC 間を南向き一方通行にし、一車線を緊急車両・シャトル</li></ul>

	<p>バス専用にする。</p> <p>⑩ 車中泊やキャンピングカー専用エリアを設け、滞在型にすることで帰宅時間を見分散させ、渋滞を緩和させる。</p> <p>⑪ 駐車場エリアを帰宅方面ごとに仕分けしたり、帰りは駐車エリアごとに時間差にするなどしてスムーズな退車動線を作る。</p> <p>⑫ 市役所や ONOKORO の駐車場を活用し、会場までのシャトルバスを運行する。</p> <p>⑬ あわ神バス等の特別運行を検討する。</p> <p>⑭ 今よりもっと沖（東浦沖など）で花火を上げ、多くの場所から見えるようになる。</p> <p>⑮ 開催時期を夏からずらす（秋の 10 月第 2 週、3 連休の中日など）。</p>
その他	<p>① 島民向けに遊覧船から見るプランを検討できないか。</p>

## 【市の夏まつり・方向性 B】

## 2 「市民・地域のため」を重視した分散開催～旧町単位での開催による、市民が本当に参加しやすく楽しめる祭りへ～

「誰のための祭りか？」の問い合わせに対して、「市民が楽しむため」との答えが多く出た。それであれば、「渋滞で行けない」「観光客ばかり」という現状を変えることが重要。市で1か所での大規模開催ではなく、例えば旧5町単位での花火大会や、時期を秋にするなどによつて、多くの市民が花火を見られるなど気楽に楽しめて手触り感のある祭りへと転換する。

## 「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	① 淡路市民として、市に対してしてほしいことを具体的に考える。
地域	① 旧5町（地域ごと）での協力体制や開催体制を整備する。 ② 地域で小さな花火を上げる（受け入れ可能か検討する）。 ③ 地元住民が見に行きやすい環境を作る。 ④ 地域としてコミュニティバスの運行を検討する。
行政	① 目的を明確にした上で、市民ファーストかつ持続可能性を考える。 ② 旧5町（岩屋、東浦、津名、一宮、北淡）で小規模な花火を分散開催し、各地区を活性化させる。 ③ 市民交流を主目的として規模を縮小し、観光客を抑制する（イメージを変える）。 ④ 市役所や商業施設などを臨時会場・駐車場として活用する。 ⑤ 開催時期を夏からずらす（秋の10月第2週、3連休の中日など）。

## 【市の夏まつり・方向性 C】

### 「メイン（津名）」と「サテライト（岩屋・北淡・一宮・東浦）」の組合せモデル～「市の象徴」と「市民・地域のため」の両立～

「市の象徴としての花火大会」も「市民・地域のための祭り」もどちらも重要な意見も多く出た。であれば、提案1と2の両方を取りにいくことができるだろうか。具体的には、市全体の一体感を醸成するメイン会場（津名地区：市と津名地区の共催）での開催と、高齢者や子ども連れも近くで気軽に楽しめるサテライト会場（岩屋・北淡・一宮・東浦：各地区の各種団体主催）での小規模開催を組み合わせる。すべての市民が「自分たちの祭り」と自分ごとに捉えながら心から楽しめる環境を作る。

#### 「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 浴衣を着て参加するなど、楽しみながら盛り上げる。</li> <li>② 自分が住む地域での開催時は自転車、歩行などで気軽に参加する。</li> <li>③ 地元の人たち（自分たち）が楽しむ。</li> </ul>
	<p><b>【メイン（津名）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 商工会などの地域団体が「自分たちの祭り」として主体的に関わり、市の祭りを受け入れる強力な実施体制を作る。</li> <li>② 既存のイベント（夜店など）のノウハウや人的ネットワークを活かし、市と協働して運営を担う。</li> </ul> <p><b>【サテライト（岩屋・北淡・一宮・東浦）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 届出等の負担が少ない規模で花火大会やイベントを企画・実施する。</li> <li>② 実施主体として、商工会支部、社会福祉協議会（社協）、PTA、まちづくり団体など、それぞれの地域の実情に合わせて体制を整備する。</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 津名港付近での花火打ち上げを想定し、津名地区と協働して駐車場の確保やアクセス道路の渋滞、警備計画など、実現に向けて検討する。</li> <li>② メイン会場では、ステージなどの夏祭りイベントは切り離し、花火特化型イベントとすることによって予算削減することを含め、柔軟に検討する。</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 津名港付近での花火打ち上げを想定し、津名地区と協働して駐車場の確保やアクセス道路の渋滞、警備計画など、実現に向けて検討する。</li> <li>② メイン会場では、ステージなどの夏祭りイベントは切り離し、花火特化型イベントとすることによって予算削減することを含め、柔軟に検討する。</li> </ul>

## 【地域の祭り】

### 4 「担い手不足」からの脱却のため、コミュニティのオープン化によって地域コミュニティそのものを維持する

地域の祭りは大きく、だんじり祭りをはじめとした「神事」と、各地区が行う盆踊りなどの祭りに分けられるが、どちらも、少子高齢化に伴う担い手不足が深刻である。地域に住む人たちが主体的に担うこれらの祭りは、コミュニティの維持において非常に重要である。維持が困難になりつつある今こそ、「自分たちの地域だけで完結する」から、他地区との連携や外部の人材の活用など転換を考える。そして、お祭りを通して地域のあり方そのものも考えていく必要がある。

### 「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち住民	【だんじり祭り・神事】 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の歴史や神事の由来（イザナギの三貴子など）を学ぶ。</li> <li>② 他地区の祭りにも参加し、相互に助け合う。</li> <li>③ 担い手としての意識をしっかりと持つ。</li> </ul> <p>【共通（だんじり祭り・神事及び夏祭り・盆踊りなど）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自分ごととして捉え、可能な限り参加する（資金面・運営面）。</li> <li>② 日頃から隣保や町内会活動に参加する。</li> <li>③ 地域の行事に参加することで、人との繋がりを意識する（以前のような繋がりの復活を目指す）。</li> <li>④ 地域の祭りとともに地域そのもののあり方を考える。</li> </ul>
	【だんじり祭り・神事】 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 声掛けをして地域祭りの人員を確保し、協力しあって神事を行う。</li> <li>② だんじりや神輿の担ぎ手を「お祭り手伝い隊」のような市外の人材や他地区住民を受け入れる柔軟な姿勢を持つ。</li> <li>③ 地域でもさらにお金を出し合う。クラウドファンディングも検討する。</li> <li>④ 祭りのあり方（活性化、必要性）を考え、まとめ、実行する。</li> </ul> <p>【夏祭り・盆踊りなど】</p>

<p style="text-align: center;">行政</p>	<p>① パワーと実行力のある組織を作る。</p> <p>【共通（だんじり祭り・神事及び夏祭り・盆踊りなど）】</p> <p>① 祭りを「楽しむ」ことを重視し、ワクワク感（餅まき等）を大事にする。</p> <p>② スーパーなど人が集まる施設へのポスター掲示や声かけを行い、地域外の人にも参加の門戸を開く（町内会長へ話をつなぐ）。</p> <p>③ 地域一斉清掃の案内などを積極的に行うなど、移住者とのコミュニケーションをこれまで以上に深める（移住者が地域活動に参加しても“よそ者”と見られないような環境づくりが大切）。</p> <p>【だんじり祭り・神事】</p> <p>① 担ぎ手が欲しい町内会と、参加したい住民をマッチングする仕組みを作る。</p> <p>② 壊れているものを優先的にして祭りの用具等への助成金の範囲を広げる（地域へのヒアリングが必須）。</p> <p>【共通（だんじり祭り・神事及び夏祭り・盆踊りなど）】</p> <p>① 各地区の祭り運営担当者会議を開催し、情報共有や横のつながりを作る。</p> <p>② 町内会の運営標準化や、将来的な合併・統廃合を見据えた旗振り役・支援を行う。</p> <p>③ 祭りの人員確保を市全体で検討し、予算配分も含めて重点支援する。</p> <p>④ できる限り地域の祭りの開催日程を把握し、それらを市の広報紙に一覧で掲載する。</p> <p>⑤ 民間の立場では言いにくい“しがらみ”的な情報提供や啓発を進める。</p>
---------------------------------------	---

### ＜その他の意見＞

- 高齢者や若い世代がほとんどいない地区は、神社そのものの存在は意識し大切に守っているが、今後どうするのか不安。

## 祭り関係以外の主な意見

### 1. 淡路市のブランディングとアイデンティティの強化（明石海峡大橋、神話 PR）

淡路市の象徴的な場所である、明石海峡大橋が明石市に所属すると誤認されている現状を改善し、淡路市の関与をさらに PR する。また、淡路市の神話（イザナギの三貴子）に基づき、市のマスコットキャラクターを含めた PR を強化する。

＜私たち住民＞

- ・ 明石海峡大橋は明石市ではなく淡路市と神戸市に架かっていることを啓発する。
- ・ イザナギの三貴子（アマテラス、ツクヨミ、スサノオ）について学ぶ。

＜地域＞

- ・ 各所で（明石海峡大橋の所属を） PR する。

＜行政＞

- ・ 明石海峡大橋の名称を「淡路島大橋」「神淡大橋」「淡神大橋（あわじん）」などへの変更を検討・提案する。
- ・ ナギ・ナミに加えて 1 人追加する。

### 2. まちづくりビジョンと公園・インフラ整備

例えば誰も行かないような小さな公園の整備ではなく、具体的なイメージに基づく骨太なまちづくりビジョンに基づいた公園整備などを行う。また、高波被害対策やセアカゴケグモ対策など、住民の安全を守るためのインフラ整備を行う。

＜私たち住民＞

- ・ アンケートなどで深く考えずに公園がほしいと書くのではなく、イメージを明確にして話し合う。
- ・ 高齢者を含め、地域での声掛けや近所付き合い、助け合いを持つ。

＜地域＞

- ・ 具体的にどこをどうしてほしいのかをまとめる。
- ・ 高齢者の寄り合う場所をつくる。
- ・ セアカゴケグモ対策として薬の散布を検討する。

＜行政＞

- ・ 「今できる小さな一歩」でごまかさず、骨太のまちづくりビジョンを計画し実行する。
- ・ 高波を避けるブロックの設置や、セアカゴケグモ対策の薬散布、高齢者やひとり暮らしの方が集まるための場所の設置や助成を検討する。

### 3. 生活環境の維持・交通安全・行政の組織運営

高齢ドライバーに対する交通安全教育を行い、ルールを忘れている運転者への学習機会を提供する。また、イベント時のごみの持ち帰りの徹底のほか、草木や粗大ゴミなどの処理の受け入れ体制を改善する。

#### ＜私たち住民＞

- ・ 免許返納を考える。
- ・ マナーやルールを守り、ゴミの持ち帰り等を徹底する。
- ・ 草木は細かくきざんで畑に置く（処分に困っている人が多い）。

#### ＜地域＞

- ・ 何かあったら地域で助け合う。
- ・ 観光客へのゴミ持ち帰りを啓発する。
- ・ 草木を全島清掃のような形で処分していく。

#### ＜行政＞

- ・ 高齢者に、現在使われている運転規則を定期的に学習してもらえるようにする。
- ・ 全島清掃時に草木もエリア処分を受け入れてほしい。
- ・ 島外に通う学生への補助を増やす。

## 4. 付録：アンケート結果

第1回から第3回会議にて実施した参加委員を対象としたアンケートの集計結果は以下のとおりです。

### 第1回会議アンケートまとめ (回答数：13人)

#### 1. 淡路市自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか？

とても 良かった	良かった	あまり良くな かった	良くなかった	どちらともい えない	無回答
1人 (7.7%)	10人 (76.9%)	1人 (7.7%)	0人	0人	1人 (7.7%)

#### 理由：

- さまざまな人の色々な意見が聞けた。前向きな意見が多いのが良かった。
- 皆さまの意見を聞いて良かった。
- 祭りについて議論ができ、有意義な時間だった。
- 夏まつりを良くしたいという想いがあるので、意見を言ったり人の意見を聞いて良かった。
- 色々な意見を聞けた。
- 皆さん積極的な意見を出し合って、本当に自分ごととして考えていたのが良かった。
- 色々な方の意見が聞けた。
- 地元の方の意見や祭りに対しての思いがそれぞれあっておもしろかった。
- 神輿の修繕にどれくらいかかるのかや高齢化など根本的な問題があり、今後の祭りの在り方がどうあるべきか考えることに意義を感じた。
- 皆さんが活発に意見を出せた。
- 多くの地区の話が聞ける。
- 個人として考えられないことを議論できた。
- 回答がずれていて長い。

#### 2. 会議に参加しようと思った理由は何ですか？

- 何か役に立てればと思った（2人）。
- 淡路市で生活していく上で、自分が何か参加できることがないかと思った。

- 少しでも淡路市をバックアップしたい。
- 次世代に伝えてあげたいことに協力したい。
- 地域の問題解決に興味があった。
- テーマについて、他人がどんなように考えているか知りたかった。
- 地域のイベントにも協力したりしているので、気が向いて参加しようと思った（メンバーになるとは）。
- 正直、少し参加してみようかなと思っただけで参加した。
- 家族（娘と息子）の「したら～」に背中を押された。
- 第1回目だから。
- 案内が届いたから。
- テーマが設定されていると思わなかった。アトランダムに問題意識に基づき議論すると思っていた。テーマを設定するのは良いと思う。新市長の元、新たに淡路市を作りあげるのに、住民からのボトムアップは意味があると思う。

### 3. 淡路市夏まつりに参加したことがありますか？

ある	ない
9人 (69.2%)	4人 (30.8%)

### 4. 3で『ある』と答えた方で、夏まつりに参加したきっかけは何ですか？

（複数回答可）

ステージが魅力的	子どもが遊べる	祭りが好き	以前参加して楽しかった	友人・知人の誘い	花火を見たい
2人 /9人中	1人 /9人中	2人 /9人中	1人 /9人中	2人 /9人中	6人 /9人中

### 5. 淡路市夏まつりについて、現時点でどのように感じていますか？

（複数回答者有）

規模縮小での開催	廃止	代替案	まだどちらとも言えない	規模拡大での開催
4人 /13人中	0人 /13人中	5人 /13人中	4人 /13人中	1人 /13人中

**6. これから夏まつりについて議論していく上で、知っておきたい情報があればご記入ください。**

- 場所の選定
- 年度ごとの来場者数
- 経費の捻出
- 予算
- 市民と観光客の比率をもう少し詳しく知りたい
- 花火にかかる条件（安全面など）
- 他市との協力は可能か

**7. 現時点で、淡路市夏まつりについて課題があるとすれば、どのようなことだと思いますか。**

- 交通問題（6人）
- 駐車場の確保・開催場所（代替案：津名、おのころ）（3人）
- 開催時期
- 経費の捻出
- 環境問題
- 各々の感じ方はどうか
- 時代の流れや住んでいる人に合わせての実施を考えるべき

**8. その他、意見・ご感想等ありましたらご記入ください。**

- 夏まつりを秋まつりに変更しては
- 島内で夏開催にどれだけニーズがあるか
- 会の進行時（特に意見交換時）ファシリテーターがもっと機能してほしい
- バスの規模縮小
- 市にメールなどで意見を交換できる場所が常時ほしい

## 第2回会議アンケートまとめ (回答数：9人)

### 1. 淡路市自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか？

とても 良かった	良かった	あまり 良くなかった	良くなかった	どちらともい えない	無回答
2人 (22.2%)	6人 (66.7%)	0人	0人	1人 (11.1%)	0人

#### 理由：

- さまざまな人の色々な意見が聞けた。前向きな意見が多いのが良かった。
- 参加しているみなさんの意見を聞いて良かったし、自分の意見も発言できた。
- 淡路市に住んでいる者として、しっかりと考える機会に参加してみたいと思ったため。
- お役に立てないようです。ただ、これから家族が暮らしていくであろう地域なので、少しくらい何かできればと思います。

### 2. 会議に参加しようと思った理由は何ですか？

- 地域の将来を考えると、枠組みや大きなビジョンから変えていかないと無理だから。
- 夏祭りについての事であったため、現状を変更してほしいため。
- 問1と一緒にますが、少し島内の生活について（良いところなのですが）正しくはないと見えるところがあります。

### 3. 本日の説明や資料は分かりやすかったですか？

とても分かり やすかった	分かり やすかった	分かり にくかった	とても分かり にくかった	どちらとも言 えない
0人	8人 (88.9%)	0人	0人	1人 (11.1%)

### 4-1. 本日の議論を踏まえて、現時点で淡路市夏まつりをどうするべきだと感じますか？

規模縮小 での開催	廃止	代替案	まだどちらと もいえない	未回答
4人 (44.5%)	0人	3人 (33.3%)	1人 (11.1%)	1人 (11.1%)

**4-2. 上記を選択した上で、淡路市夏まつりの開催時期はどうするべきだと感じますか？（※4-1で「廃止」を選択した方は回答不要です。）**

- 8月
- 繁忙期を避けて
- 10, 11月（4名）
- 7～10月
- 7月
- 10月

**4-3. 上記（4-1、4-2の回答）を選択した理由**

- 花火は夏にするものです。夜に寒い花火は風情がない。夏祭りの規模はもっと盛大にやるべきと思っています。
- 夏の淡路市はすでにオーバーツーリズム・夏休み期間中は淡路島に入込人口が多いため。
- 旧5地区で分散して花火を行えば、島外の人は色々な地区の観光に行って、好き場所で花火を見る。風や雨が少なく寒くない時がいい
- 気候的にもよいのでは。
- 秋のシーズンに観光客を淡路市へ入れる。あと空が澄んで花火が美しく見える。
- 夏休みをさけて、観光客を少なくする。10.11月だと日が暮れるのも早いので早めに花火を初めて、早めに花火を終えてはどうか。

**5-1. 淡路市では地域の祭りが盛んだと思いますか？**

とても盛ん	盛ん	あまり盛んでない	盛んでない	どちらともいえない
1人 (11.1%)	5人 (55.6%)	1人 (11.1%)	1人 (11.1%)	1人 (11.1%)

**5-2. 上記を選択した理由**

- あまり見かけないので。告知されていない
- みんなでそれなりに祭りにプライドをもってやっているので
- まだまだ地域の祭りも残っている
- 神事は盛んだが、夏祭り等がまだポテンシャルが余っている気がする。
- 高齢化・祭りが好きな地域性が多いと思われます。

- 今回の会議でそう感じました。
- 各地区でだんじりがあるから。

## 6. 地域の祭りに参加する場合、以下のどの祭りに参加しますか？

※複数回答 OK

神事・祈願祭	地域内外交流の祭り	文化の伝承の祭り
6人 /9人中	7人 /9人中	5人 /9人中

## 7. 上記祭りに参加した場合、何を目的に参加しますか？また課題と感じることは何ですか？

### 【目的】

- 地域の人との交流。地域の神事に参加。
- 地元なので。
- 地域の活性化、融和、神事ごと。
- 楽しい。地域の力になる（ボランティアではなく、お互い様だと思う。）
- 開催にあたってのお手伝い。子育て支援の一環として
- 地域の連帯。楽しみとしての参加。もちまき等。
- 昔からの地域伝統を守る

### 【課題】

- 参加人数の減少。
- 目先はなんとかするが、長期的計画をたてられるような状況にない。
- 参加する人数、参加者が少ない
- 子供がいない
- 集客の少なさ
- 人員不足（高齢化、人口不足）
- 今現在であれば、島内の生活習慣に壁を感じます。それが島内だけの習慣であれば、少し改めてほしいと思います。車の走行時に人に向かって、クラクションを鳴らす等
- だんじりの担ぎ手の不足

## 8. その他、意見・ご感想等ありましたらご記入ください。

- 一人当たりの発言時間に制限がある方がいいと思います。
- 第1回その他の地域（生活基盤と・地域維持）の農地の農業振興地域からの除外で、農業振興地域計画を大規模に見直しを行い、現状、今後の計画方向性を出してほしい。農業も人材が必要であるので、「人の集まる、人の住める、農業も出来る」明確な変更を希望します。
- 駐車場を有料化しての1か所での花火大会も悪くないと思います。地区をバラけさせる案に1票ですが、良い方になればいいな思います。
- 貴重な時間をありがとうございました。

## 第3回会議アンケートまとめ (回答数：12人)

### 1. 淡路市自己ごと化会議に参加してみていかがでしたか？

非常に満足	満足	どちらともいえない	不満	非常に不満	無回答
3人 (25%)	9人 (75%)	0人	0人	0人	0人

#### 理由：

- 自分の住んでいる地域の問題等を自分事として考えるキッカケになった。この会がなければ、考えもしなかったんだろう。
- 様々な意見が出たのが一番良かったです。
- 自分も大いに勉強させてもらえたし、出席者の意見にも関心させられた。
- いろいろな意見を聞いて良かったです。
- 他の人の意見を聞けるのもいいし、自分の意見をまとめられたのもよかったです。
- これから淡路島ライフを考えはじめました。
- 色んな方の意見が聞いて良かった。
- 自分の意見を市に伝えることができた。
- 一市民として意見が取り入れられ、市政（議会？）にも影響し、議論を深めて頂けると思います。
- ボトムアップで意見を聞き、行政に生かそうとする市長のあり方は、意味あることだと思う。

### 2. 今回のテーマ「淡路市夏まつりのあり方について」は住民が考える内容として、どう思われますか？

とても 良かった	まあまあ 良かった	どちらともい えない	あまり 良くなかった	まったく 良くなかった	その他
5人 (41.7%)	7人 (58.3%)	0人	0人	0人	0人

### 3-1. 自分ごと化会議に参加したことで、意識に変化はありましたか？

変わった	変わっていない	分からぬ
7人 (58.3%)	5人 (41.7%)	0人

### 3-2. 具体的に変わった点

- 淡路市夏祭り、地域の祭り、それぞれの問題点が浮き彫りになり、今後もそうした問題点を自分なりに考えたいと思います。
- 今後、夏まつり等いろいろ参加していきたいです。
- 議題に対して、「自分ごと化」した感覚はある
- 3回とも参加できた（私 すごい がんばった！）
- 淡路市がこういう取組をした事自体が大きな変化であり、今後、別の課題を提案し、会議をしたらと思う。
- 地域の行事ごとや市政について考えさせられる。

### 4-1. 自分ごと化会議に参加したことで、行動に変化がありましたか？

変わった	これから 変える	変わって いない	分からぬ
1人 (8.3%)	7人 (58.4%)	3人 (25%)	1人 (8.3%)

### 4-2. 具体的に変わった点(変える点)

- 地域の人たちともっとかかわっていこうと思う。
- 地域の催しにもった参加しようかな。
- 意識と同じ（淡路市がこういう取組をした事自体が大きな変化であり、今後、別の課題を提案し、会議をしたらと思う。）
- 淡路市に何かの形で協力する。
- もう少し行政に関心を持ち、言うべきことは言えるようにしたい。

**5. 今回の自分ごと化会議のように、無作為抽出の手法を使って議論していくやり方についてどう思いますか？**

必要だと思う	必要だと思わない	どちらとも言えない
10人 (83.3%)	0人	2人 (16.7%)

**6. 今後、市民同士で、市の重要課題について議論・意見交換し、市へ改善提案できる場があれば参加したいと思いますか？**

思う	思わない	どちらとも言えない
10人 (83.3%)	2人 (16.7%)	0人

**7. その他、全体を通じた感想やコメントをご記入ください。**

- 自分の意見を聞いていただき良かったです。
- マイクを持つのが嫌です。座談会みたいだったらよかったです。
- 今回は大変勉強になりました。
- すばらしい会議だと思いました。又参加したいです。
- 結論ありきの議論ではなく、自由に意見だし、みんなでより良い市づくりをしようとする姿勢を評価したい。

**8. あなたは、自分ごと化会議に参加する以前に、市役所とどの程度の関わりがありましたか？**

ほとんど行ったことがなかった	年に数回は行っていた	頻繁に行っていた	その他
5人 (41.6%)	3人 (25%)	2人 (16.7%)	2人 (16.7%)

## 9. 選挙の投票に行きますか？

必ず 行っている	だいたい 行っている	ほとんど 行かない	行ったことが ない
9人 (75%)	2人 (16.7%)	1人 (8.3%)	0人

## 10. 淡路市市をより住みやすくするために、特に誰が主体的に行動することが必要だと思いますか？

住民ひとり ひとり	地域全体（自 治会／町内会 含む）	地域の行政 (役所)	地域の政治 (議会)	国の行政 (政府)	国政	その他
5人 (41.7%)	2人 (16.7%)	3人 (25%)	0人	1人 (8.3%)	0人	1人 (8.3%)

### その他

- 会のはじめに、市長は「共創」と言われました。その言葉が頭の中にあるので、「住民ひとりひとり」と「地域の行政（役所）」の間で悩みました。
- 1つ選ぶのはむつかしい。行政のリーダーシップで、住民も地域も行動すべきだ。